

# 大和地区日中友好協会だより



令和7年度 第4号 (2025年11月1日 編集・発行) 編集 事務局

## 軍縮、平和そして日中友好

本会役員・大和市会議員 堀合 研二郎

人類の健やかな暮らしを下からそっと支えるのが政治の役割だと、私は常々考えております。その大前提として戦争のない平和な世界を維持するということが国民の悲願であり、代表者たる政治家にとっては何よりも優先して取り組むべき課題であると考えます。そういう課題の解決を成し遂げるためには、歴史が残した正と負の遺産を正しく見分け、それを後世に伝え、人類の行先を明確なビジョンとして指示することが必要不可欠ではないでしょうか。地球上のあちこちで戦争が起り、自国防衛のためと称して軍拡に走る傾向をまのあたりにする昨今、一層このことを思わずにはおれません。

そのような視座に立った時、戦争の歴史への反省としての軍縮と諸外国、特に東アジア地域での平和外交に尽力された故宇都宮徳馬氏の功績は甚だ大きなものであると思います。即ち、軍事費は経済と国民生活を圧迫し、戦争という危機的雰囲気を醸成するとの一貫した主張がありました。私は後に残された者の一人として、或いは同じ大和市民として、彼の政治思想についてしっかりと咀嚼してそれらを皆様に伝えていくことも、また一つの使命ではないかと考えます。

ともかくも昨今の世界的な軍拡路線を見るにつけ、宇都宮氏の懸念が具現化してしまったように思います。氏の先見性には感心せざるを得ず、世界の未来を予見する政治家としての資質について今更ながらに感銘を受ける次第です。

私は今こそ、宇都宮徳馬氏の政治思想についてしっかりと学び、軍縮と東アジア地域での平和維持体制の強化に同時並行的に取り組んでいかなくてはいけない、そのような思いを強くする次第であります。そしてそのための鍵を握っているのが日本と中国との平和・友好であります。

以上を、来年度の談話会で私のテーマにしたいと考えています。その時には、じっくりお話しさせて戴き、参加される皆さんと意見交換ができればと思っています。



### 談話会「共に語ろう 日本と中国」今後の予定一

第5回 12月7日(日) テーマ「最近の中国経済について」発表者 復旦大学・本会参与 吉田 浩二  
会場…シリウス6階生涯学習センター610 大会議室(定員は50名)

午後1時45分～3時15分(入室は1時30分) 参加費無料

申込方法…資料準備の都合上、できるだけメールか電話で下記宛お申し込みください。

石井 080-5026-0177

## ✿ 第3回談話会のご報告

9月28日（日）、今年度第3回目の談話会「共に語ろう 日本と中国」が生涯学習センター大会議室で開催されました。

今回のテーマは「横浜日本中国友好協会の友好交流活動の歩み」で、横浜日本中国友好協会事務局長の小松崎氏をお招きし発表して戴きました。この日の参加者は会員10名、地域日中3名、一般からの参加者10名の合計23名でした。

横浜日中友好協会は、日中正常化共同声明が調印された2年前の1970年に民間の有志によって発足し、今年で55周年を迎えていきます。発足初期から中国語講座、太極拳講座を開講し、1999年には山西省に横浜王村希望小学校を建設、日中友好45周年コンサートの開催、友好都市上海との交流など、民間レベルとしては画期的な活動をされています。また今年12月には関東学院大学生5名を上海に派遣し、青少 年交流活動の促進を図るなど将来に向けての展望なども、視野に据えた活動に敬意を抱きました。



発表後、熱心な質問や意見が出ました

発表後の質疑応答では、多くの質問や意見などが寄せられ活発なやりとりがありました。本会会員で内蒙出身の王俊秀氏が、自らの体験を交えながら中国の状況を説明するなど、回を追うごとに参加者の中国に対する関心や理解も深まっているようです。

毎回参加者アンケートをとらせていただいておりますが、今回もすべての方から「良かった」との回答をいただき、本会主催の談話会が日中友好の架け橋になっていることを嬉しく思います。（桐野輝久）

## ✿ 第4回談話会のご報告

今年度の「共に語ろう 日本と中国」第4回談話会「聴き、歌い、奏でよう！日中名曲交流」が10月19日午後大和市生涯学習センター大会議室で開催されました。ナレーター及び演奏リーダーは本会役員佐々木優韻さん。スクリーンショットで日中両国の歌の歴史を古代・近世・近代・戦後から現代に分け、各時代の特徴を、また代表的な曲を挙げて説明され、懐かしい歌手の映像を見つつそれらの曲を聞かせてくれました。例えば近代・現代の曲名では、“さくら さくら”、“茉莉花”、“草原情歌”、“里の秋”、“北国の春”、“昂”、“コスモス”、“ありがとう あなた”、“花心”、“大海啊 故郷”等々。また、音楽を通じた文化交流の魅力についても話されました。



後半は、今回の談話会のために特訓された演奏者6名（ギター、キーボード、ウクレレ）、歌手3名が紹介され、日本・中国両国語で“月亮代表我的心”、“夜来香”、“花～すべての人の心に花を”、“上を向いて歩こう”、“大海啊…故郷”、等を奏で、最後に本談話会に参加した32名全員（中国人数名を含む）で“ふるさと”を演奏に合わせて参加者皆が合唱しつつ日中友好への思いを深め、従来の談話会とは趣が異なる楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

6名の演奏に合わせ、皆で合唱しました。

なお、この日の参加者は一般から何と23名。予想をはるかに超えており、会員を加えて計32名と盛況でした。このような催しは来年以降も続けられることを希望します。（高木 佑三）